

中国におけるスキー経験者の参加動機に関する研究—北京のスキー経験者に着目して—

ビジネスマネジメント研究領域
5018A045-1 戴文倩

研究指導教員：原田 宗彦 教授

1. はじめに

2022年冬季オリンピックを主催する権利を獲得して以来、スキーはウインターリースポーツの一部として、それに関する産業の発展が中国に注目された。より多くの人をスキーに参加させるように、中国政策が「3億人を冰雪スポーツに参加させる」ことを提唱し、スキーに関する政策も続々出された。したがって、スキー場の数は年間195%の増加率で増えているとともに、スキーを経験した人の数も10年前の3倍に倍増した。特に北京からのスキービークスが中国全体の30%以上に占めており、北京でのスキー産業は中国においても重要な市場であることがうかがえる（中国スキー産業白書, 2018）。中国におけるスキー産業の発展は好調であるが、スキー場の設備が完備せず、サービス品質が低いなど問題も指摘されている。中国のスキー産業を推進するために、スキー場とスキー経験者に関する研究を行うことがすごく意義がある。しかし、これまでの研究と調査は発展現状に偏り、スキー経験者たちの参加動機など状況について研究と考察は欠如している点が指摘された（Kan, 2012）。本研究では北京におけるスキー経験者を着目して、それらの特性、スキー技能レベル及び参加動機を明らかにすることとした。

2. 先行研究

自己決定理論（Self-determination theory, SDT）は動機に関するメインな理論として、20世紀80年代に米国の心理学者 Deci & Ryan によって作成された。自律動機とコントロール動機が最も重要な2つの動機があり、特に自律動機には内発的な動機要因と外発的な

動機要因を含めており、つまり、人々は活動の価値を認めたという動機を自己意識と理想的に統合する。内発的動機づけは外部からのプレッシャーや報酬など外的的なものではなく、娯楽とチャレンジを目的とした人を動かす要因となっている。一方、外発的動機づけは内発的と異なり、主に外部からのものが自分を動かす要因となる。

スポーツ活動への参加の動機づけは多くの研究が散見されており、その理由も多様的に存在している。年齢や性別など人口特性要因、または家族やクラスメートなど社会環境要因が動機に影響があるとされている（VelloHein, 2014; Hassandm, 2003）。過去内発と外発の動機要因に関する調査では参加動機に影響を及ぼす要因とされているに研究については、スキルレベルが参加意欲と頻度に影響を与え、高いスキルレベルは参加に正の相関性が明らかにされた

（Watkins, 1986; Casoer, 2008; 陳, 2008）。スキーにおいてのチャレンジ動機が参加頻度、スキー技術レベルと消費能力を予測でき、そして、参加動機が消費回数と消費関連（involvement）にプラス影響を及ぼすことが検証された（Hungenberg, 2013; Ma, 2017）。

3. 研究目的

本研究は、北京市の住民を対象として①スキー経験者デモグラフィックを明らかにすること、②のスキーレベルまたは経験と特性を明らかにすること、スキー経験者③スキー経験者のスキーレベル別による参加動機の違いを明らかにすること。

4. 研究方法

2019年9月17日-10月6日の期間に、ウェブサイト問卷星 (Wen Juan Xing) を用いてオンラインアンケート調査を実施した。調査対象は北京におけるスキー経験者で、調査方法は「ウィチャット」(Wechat) という中国スマホアプリを利用して、オンラインアンケートにアクセスできるQRコードを拡散した。調査項目は Ma (2017) が用いた中国語のスキー参加動機 5 因子 19 項目の尺度を設定した。回答者には「スキーを参加する動機について、それぞれ当てはまる番号を選んでください」という質問文で回答を求め、測定尺度には、「1:全く当てはまらない」から「7:非常に当てはまる」の 7 段階リッカート尺度を用いた。結果では 451 部有効回答が得られた。

4. 結果・考察

①男性と女性がほぼ同じ割合で、30代以下の若年層がメインであり、中高収入層は最も多く、6割のスキー参加者が大学卒で高学歴者が多い。②約7割がレベル1とレベル2の初心者で、また約8割の参加者が過去一年間にスキーを行っていた。宿泊状況では、約6割の参加者がスキー場近くに泊まらず、残りの4割の宿泊するスキー参加者の中で、宿泊日数が3回以内の人が8割以上を占めていた。消費金額では6割の参加者が500元以下ということが明らかになった。③スキーレベル別による参加動機の違いでは、参加動機とレベル別の比較に有意な差がみられ、「チャレンジ」と「個性」この2つの因子が北京スキー参加者にとって重要な参加動機であることがわかった(表4-4)。多重比較の結果では、「チャレンジ」因子は3要因、「個性」因子は2要因に有意な差がみられた(表4-5;4-6)。

5. 研究の限界

本研究の限界は、援用した Ma (2017) の尺度の測定項目について汎用性が不確となり、オンラインアンケート調査については、アンケートの宣伝と配布方法に対する再検討を行う必要がある。また、北京スキー経験者を対象とした研究結果が中国スキー産業にもたらす貢献性は検討が必要になると考えられる。

表4-4 スキーレベルによる動機の比較

因子	①レベル1 (n=132)		②レベル2 (n=170)		③レベル3 (n=62)	
	M	SD	M	SD	M	SD
チャレンジ	3.98 (0.99)		4.24 (0.98)		4.15 (0.98)	
社会的な認知	4.29 (1.56)		4.61 (1.55)		4.46 (1.64)	
リラックス	4.91 (1.34)		5.19 (1.18)		5.08 (1.33)	
自然を楽しむ	5.10 (1.38)		5.31 (1.21)		5.15 (1.46)	
個性を表す	5.09 (1.37)		5.37 (1.22)		5.21 (1.29)	
④レベル4 (n=47)	⑤レベル5 (n=40)		F 値		有意確率	
M	SD	M	SD			
3.9 (0.89)		4.69 (1.06)		4.712***		0.001
4.0 (1.58)		4.41 (1.79)		1.569		0.182
4.8 (1.29)		5.36 (1.27)		1.961		0.1
4.7 (1.71)		5.4 (1.76)		2.011		0.092
4.6 (1.53)		5.7 (1.23)		4.536***		0.001

*** : p<.001

表4-5 tukeyHSD 法分散分析表 チャレンジ因子 多重比較

従属変数	(I) スキー	(J) スキー	平均値の差	標準
	レベル	レベル	(I-J)	誤差
チャレンジ	level5	level1	0.71***	0.18
		level3	0.54*	0.20
		level4	0.71**	0.21

表4-6 tukeyHSD 法分散分析表 個性因子 多重比較

従属変数	(I) スキー	(J) スキー	平均値の差	標準
	レベル	レベル	(I-J)	誤差
個性	level2	level4	0.73**	0.22
		level5	1.06**	0.28